

SUBSTITUTE関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

SUBSTITUTE関数の基本をおさらい

SUBSTITUTE関数の基本をおさらい

SUBSTITUTE（サブスティテュート）関数は、セル内の「特定の文字」を探して、「別の文字」に置き換える関数です。セルの内容を書き換えることはなく、「置換（Ctrl+H）」機能の関数版と考えると分かりやすいです。

=SUBSTITUTE(文字列, 検索文字列, 置換文字列, [置換対象])

引数	内容
① 文字列	操作したい元のテキストやセル（例：A1）
② 検索文字列	変えたい（消したい）文字（例："（株）"）
③ 置換文字列	変更後の文字（例："(株)"） ※削除したい場合は "" (空白)を指定
④ 置換対象	（省略可）何番目の文字だけを変えるか指定 省略すると、すべての対象文字列は置換文字列に置き換え

【比較】 REPLACE関数との決定的な違い

【比較】 REPLACE関数との決定的な違い

「文字を置き換える」関数にはもう一つ REPLACE 関数がありますが、使い所が明確に違います。

関数	置き換えの基準	向いているシーン
SUBSTITUTE	特定の「文字」を指定 (「東京都」を「Tokyo」に)	・表記ゆれの統一 (全角/半角、旧字/新字など) ・特定の文字の削除
REPLACE	特定の「位置」を指定 (3文字目から2文字を「XX」に)	・個人情報の秘匿 (電話番号の下4桁を伏字にする等) ・桁数が固定のコード修正

 **ポイント** : 「何文字目にあるかわからないけど、とにかく "@"を"a"に置き換えたい」という時は、迷わず **SUBSTITUTE** を使います。

【実践①】 不要な文字を「削除」する

【実践①】 不要な文字を「削除」する

SUBSTITUTE関数の最もポピュラーな使い方は、置換ではなく「削除」です。
置換後の文字に"" (ダブルクォーテーション2つ=空文字) を指定することで実現します。

シナリオ: 電話番号「090-1234-5678」から、ハイフンを取り除いて「09012345678」にしたい。

数式: =SUBSTITUTE(A1, "-", "")

解説:

1. A1セルの "-" (ハイフン) を探す。
2. "" (空文字=何もない状態) に置き換える。
3. 結果として、ハイフンだけが消える。

※半角・全角を問わず、データ内の不要なスペースの削除(" "や" ")にも非常によく使われます。

【実践②】

関数を「入れ子」にして複数一気に変える

【実践②】関数を「入れ子」にして複数一気に変える

実務では「(株)」も「(株)」も、全部「株式会社」に統一したい」という場面があります。
複数の表記揺れを統一したい時は、SUBSTITUTE関数をネスト（入れ子）にします。

シナリオ: 「(株)」と「(株)」が混在しているのを、「株式会社」に統一したい。

数式: `=SUBSTITUTE(SUBSTITUTE(A1,"(株)","株式会社"),"(株)","株式会社")`

解説:

1. 内側のSUBSTITUTEで、まず半角「(株)」を「株式会社」に変換
2. ステップ 1 の結果に対して、外側の SUBSTITUTEで全角「(株)」を「株式会社」に変換
3. 上記の2段階ステップを繰り返せば、3つ以上の表記ゆれも一括修正が可能

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。